

3. 令和8年に特に注意を要する病害虫

(研究成果名：令和7年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫)

道総研 中央農業試験場 病虫部 予察診断G

1. はじめに

北海道病害虫防除所、道総研各農業試験場、および道農政部技術普及課等で実施した病害虫発生予察事業ならびに試験研究の結果から令和8年に特に注意すべき病害虫について報告する。

2. 令和7年度の病害虫の発生状況

令和7年も病害虫の発生は高温の影響を大きく受け、各種害虫や高温性病害の早発が目立った。やや多発～多発となった主要病害虫を表1に示した。

表1 令和7年に多発・やや多発した主要病害虫

作物名	病害虫名
水稻	ヒメトビウンカ <u>斑点米カメムシ類</u>
秋まき小麦	眼紋病
春まき小麦 (初冬まき)	ムギキモグリバエ
大豆	わい化病
てんさい	<u>褐斑病</u> 、ヨトウガ (第1回、第2回) テンサイモグリハナバエ
たまねぎ	ネギアザミウマ
ねぎ	<u>ネギアザミウマ</u>
キャベツ	コナガ
りんご	<u>腐らん病</u>

下線は多発生となった病害虫を示す

一方で、前年度に引き続き、低温や湿潤条件下で発生しやすい小麦の赤かび病、小豆・菜豆の菌核病や灰色かび病、ばれいしょの疫病の発生は少なかった。

また、飛来性の害虫による被害が目立った。てんさいでは通常防除対象とされるヨトウガ以外に、飛来性のシロオビノメイガやシロイチモジヨ

トウの食害が混発した。令和5年から飛来が認められるようになったトマトキバガは、本年度もハウス内で春季からの発生が認められたが、発生初期からの適切な防除により被害は少なく抑えられた。

3. 令和8年に特に注意を要する病害虫

1) どうもろこしのアワノメイガ

生食用どうもろこしに加え加工用、飼料用でも被害が多発した。本種は幼虫が雌穂に侵入し子実を食害する他、茎内に食入し、茎の被害により機械収穫が困難となる。また、飼料用の子実どうもろこしでは本種の被害によりカビ毒発生のリスクも懸念される。近年、本種は年2回の発生となっており、1回目の成虫の発生はこれまでより早い6月上旬から7月中旬に、2回目は8月上旬から9月下旬に発生が認められている。このため発生に合わせた防除開始時期は早まっており、防除時期も2回あると考えられる。防除に当たっては、加工用及び飼料用においても生食用に準じ、前年の発生量や発生予察情報を踏まえ防除を実施し、発生時期にあわせて散布適期を失しないよう注意する。また、収穫後は速やかに残渣を処理し、越冬密度を下げることも重要である。

2) 大豆の大型カメムシ類

道央、道南地域の大豆圃場で莢への加害が多数確認された。発生虫種はホソヘリカメムシ、クサギカメムシ、ブチヒゲカメムシの大型カメムシが優占し、これまでとは種構成が異なっていた。発生種の多くが成虫越冬するとされており、本年多発が認められた地域においては今後も発生が多くなると推測される。複数種が長期間にわたって発生、着莢始めから黄熟期まで加害し、被害程度は加害時期における莢と子実の生育段階で異なるた

め、防除は大豆の生育に合わせて実施する。発生種によって薬剤の感受性が異なるため、防除実施後は効果を確認することが重要である。

3) てんさいの飛来性鱗翅目害虫

6月下旬、長沼町に設置した予察灯でシロオビノメイガの誘殺が確認され、7月上旬には道央、道南地域で食害が確認された。8月上旬中旬にはシロイチモジヨトウの多飛来が確認され、その後道東地域で幼虫による加害が確認された。シロオビノメイガの若齢幼虫は網目状に食害し「尺とり」状に歩行し、シロイチモジヨトウの幼虫は腹部側面に明瞭な白色線があるなどの特徴がある。令和8年度の防除にあたっては、北海道病害虫防除所のホームページで飛来情報を確認するとともに、発生を認めた場合には速やかに殺虫剤を散布する。それぞれの種で効果の高い薬剤が異なることから、薬剤選択に留意し、防除実施後は効果を確認することが重要である。

4) 果樹の大型カメムシ類

6月下旬以降、道央、道南地域の醸造用ぶどう園地でチャバネアオカメムシやブチヒゲカメムシ等が、おうとうやりんごではクサギカメムシ等の大型カメムシ類が多発した。前年までの越冬量が多かったことに加え夏季高温で発生が早まり、個体数が増加したと考えられる。令和7年の越冬量も同様に多いと予想されることから令和8年も多発が懸念される。防除に当たっては、発生状況をよく観察し、果実被害が懸念される場合には、カメムシ類に登録のある薬剤で直ちに防除を実施する。有袋栽培も吸汁被害を抑制する効果がある。

4. 令和7年度に新たに発生を認めた病害虫

令和7年度に、道内で新たに発生を認めた病害虫は18（病害5、害虫13）ある。一部を以下に紹介する。

大豆のクサギカメムシ：多食性で、マメ類の他にリンゴやおうとうなど多くの果実を吸汁するが、本年は道央地域の大豆で莢全体の褐変、子実

の吸汁などの加害が確認された。

たまねぎの黒かび病：貯蔵中のたまねぎにおいて、可食部のりん片に腐敗、黒い菌叢の発生として認められた。糸状菌 *Aspergillus niger* による病害である。

なすのマキバカスミカメ：施設栽培のなすで展開した葉に大きさ数mm程度の穴が点在する症状が発生し、本種による加害であることが分かった。本種はこれまではくさいやスイートコーンなど様々な作物への寄生が確認されている。

特に注意を要する病害虫および新発生病害虫の詳細な情報については、北海道病害虫防除所のホームページに掲載していますので、こちらもご覧ください。

